

平成 26 年度

運営に関する計画

最終反省

大阪市立長吉中学校

目 次

1. 学校運営の中期目標

2. 中期目標に向けた年度目標

3. 学力の向上

(1) 授業研究を伴う校内研修の充実

(2) 各教科

・国語 ・社会 ・数学 ・理科 ・音楽 ・美術 ・技術家庭科 ・英語

(3) 自主学習習慣の確立

(4) 読書活動の充実

4. 道徳心・社会性の育成

(1) いじめ・問題行動への対応

(2) 人権を尊重する教育の推進

(3) 道徳教育の推進

(4) 特別支援教育の充実

(5) 体験的学習の充実

(6) 美化・環境整備

5. 健康・体力の保持増進

(1) 体育的活動の充実

(2) 体育科の授業の充実

(3) 健康的な生活習慣の確立

大阪市内 長吉中学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校が取り組むべき根本課題は低学力の克服である。様々な背景を抱える生徒達が、学校は楽しいと感じ、その学校でいきいきと意欲的に学び、生き抜く力をつけられるように、本校の教育を進めていかねばならない。合わせて、家庭での学習習慣・生活規律が確立できるよう指導していく必要がある。そのための中期目標に基づいた平成25年度の年間取組は、概ね順調に進めることができた。

各取組内容のうち一部は目標を上回り、さらに充実した内容とすることができた。特に、大きな役割を果たしたのは次の2点である。

- ① 授業改革の取組
- ② 生徒が輝く活動を支援する取組

この2点の取組の内容と成果はそれぞれ次のようにまとめられる。

- ① 研修担当(首席)を中心とした「頑張る先生支援」事業を活用することで、先進的な授業改革に取り組む学校視察と伝達研修を行うことや、外部講師も招聘した年間7回の授業研修(研究授業と協議会、講師からの講演)等により、授業改革が進んだ。
- ② 「校長経営戦略予算」加算配布分を活用することで、特色ある学校づくりにも大きく貢献し、生徒が自分たちで決めて自分たちで取り組み、仲間・保護者その他の人々から高く評価されることで大きな成就感を持つことができた。

また、生活指導における教職員の指針を明文化し、これに基づいて更に協議を重ねて共通認識をもち、組織的な指導を行うことで、生徒や家庭から信頼感を得ることができてきた。これらが相乗効果を生み、本校の教育活動は大きくレベルアップした。

しかしながら、中期目標への方向性を過たず漸進しているものの、根本的な課題が克服できたわけではない。課題克服のための指針となる本計画も2年目を迎え、一層充実させる必要がある。上記2点について更に充実させるべく以下のように取り組み、本校教育の柱として中期目標の達成をめざす。

- ① 生徒自身がわからないことを自ら発見して表現し、ともに考えともに学び合う授業を創造することによって学力向上を図る。
- ② 生徒の自律を促すため、教職員が共通認識を持った組織的な生活指導を行うとともに、生徒が輝き成就感を得られる自主的・体験的活動を組織し教職員全体で支援する。

中期目標**【学校教育目標】**

- 基礎・基本の充実を図り、自ら学ぶ態度の育成に努め、学力向上を図る。
- 他者への思いやりのこころを育て、人権尊重の精神を養う。
- 知・徳・体の調和の取れた人間形成に努める。

【視点 学力の向上】

- 基礎・基本の充実を図るため、全教員が習熟度別授業を含めた研究授業を行い、指導技術を向上させる。(マネジメント改革・学校サポート改革関連)
- H28年度全国学力・学習状況調査におけるA問題正答率を全領域で8割以上またはH24年度より10ポイント向上させる。(カリキュラム改革関連)

- 自ら学ぶ態度の育成に努め、H28年度全国学力・学習状況調査における「家で学校の宿題（授業の復習）をしていますか」の項目で「している・どちらかといえばしている」と答える生徒の割合をH24年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）
- 読書を勧める取り組みを充実させ、H28年度全国学力・学習状況調査で「読書は好きだ」の項目で「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」と答える生徒の割合をH24年度より10ポイント向上させる。（カリキュラム改革関連）

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 他者への思いやりの心を育て、学校で認知したいじめについて解消に向けて100%対応し、H27年度暴力行為の発生件数をH24年度より減少させる。（マネジメント改革関連）
- 人権尊重の精神と社会性を育成するため、体験的な学習を取り入れた教育を全学年で実施・充実させるとともに、生徒アンケート等で「学校は楽しい」など充実感を示す解答を向上させる。（ガバナンス改革関連）
- 美化活動に積極的に取り組む態度を養い、生徒向け学校アンケート「清掃活動や環境整備活動はしっかりできている」で肯定意見率を向上させる。（カリキュラム改革関連）

【視点 健康・体力の保持増進】

- 知・徳・体の調和の取れた人間形成の一環として体育的行事を充実させるとともに、部活動への参加率を向上させる。（カリキュラム改革関連）
- H27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における各学年の合計得点を、H24年度より向上させる。（ガバナンス改革関連）
- 健康で楽しい学校生活を自ら作り出す生活態度を養うとともに、定期健康診断の結果による治療勧奨を行い、未治療率を減少させる。（カリキュラム改革関連）

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- 全教員が年1回以上、指導案を作成した研究授業を行い、生徒自身の学びによって学力を向上させることをめざして、わからないことを自ら発見して表現し、ともに考えともに学び合う授業を創造していく。（学校サポート改革・マネジメント改革関連）
- H24年度とH25年度の全国学力・学習状況調査の解答状況を比較分析し、つまづきを克服する指導を行う。（カリキュラム改革関連）
- H26学校アンケートの「家庭学習をしっかりしている」の項目で「している・どちらかといえばしている」と答える割合を生徒・保護者ともにH25年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）
- H25年度図書室の利用者増加の効果を生かし、学びにつながる読書活動を創造していく。（カリキュラム改革関連）

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 学校行事や生徒の主体的な活動も含め、他者への思いやりの心を育てる取組を一層充実させる。また、昨年度の学校で認知した「いじめ」への粘り強い対応の成果を生かし、「いじめ」および暴力行為の発生件数を昨年度より減少させる。（マネジメント改革関連）
- 人権尊重の精神と社会性を育成するため、体験的な学習を取り入れた教育を全学年で実施・充実させるとともに、生徒が輝き成就感を得られる自主的・体験的活動を組織し教職員

全体で支援する。このことで、生徒アンケート等で「学校は楽しい」など充実感を示す解答を昨年度以上に向上させる。（カリキュラム改革関連）

- 美化活動に積極的に取り組む態度を養うとともに生徒の主体的な環境整備活動を支援し、生徒向け学校アンケート「清掃活動や環境整備活動はしっかりできている」で肯定意見率を向上させる。（カリキュラム改革関連）

【視点 健康・体力の保持増進】

- 知・徳・体の調和の取れた人間形成の一環として体育的行事を充実させるとともに、部活動への参加率を一層向上させる。（カリキュラム改革関連）
- H25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査で課題のある種目の指導を強化し、男女とも運動能力を一層向上させる。（カリキュラム改革関連）
- 健康で楽しい学校生活を自ら作り出す生活態度を養うとともに、定期健康診断の結果による治療勧奨を行い、未治療率を更に減少させる。（カリキュラム改革関連）

3 本年度の自己評価結果の総括

本計画では中期目標においても年度目標においても、進捗・達成状況を測る指標として全国学力・学習状況調査の結果を多面的に分析活用しているが、既に公表している平成26年度調査結果は25年度のものから大きな改善が認められる。これはむしろ昨年度取組の成果が表れていると考えるのが妥当であるが、概ね三カ年の継続性を持つ本計画は今年度も順調に進捗していることに間違いはない。他の指標の進捗状況にも表れている。また、目的別シートの一部「C」評価の中には、学力獲得のためより高い内容で取り組んだ結果も含まれている。生徒が主体となって学び、教職員が思いを共有して支援する教育活動を推し進め、保護者・地域の人たちが協力連携しての結果である。

具体的な数値では表すことが難しい日常の取組成果によっても、子どもたちが安心して主体的に学べる学校づくりは進んでいるものと考えている。本当に生きた学力を子どもたちに獲得させることができているかどうかは、数十年先に今の本校生徒たち自身が行う評価を待たねばならないことでもあるが、現時点でのアンケート結果やホームページ等で公開している本校の様子、生徒たちの声からもある程度確認できるものと考えている。「校長経営戦略予算」による取組の充実も大きな効果を上げた。すべての生徒が学びの場としての学校を楽しんでいることを目指している。

以上のように、大きな成果を確信しているが、未だ課題は数多く存在し、また取組が進むことによって新たに見えてくる課題もある。特に今年度も「がんばる先生支援」事業によって授業改善研修を大きく前進させたかったが、残念ながら選定から漏れたため、規模を縮小した部分があった。それでも授業改善研究外部講師にボランティアで来ていただいたり、先進的な取り組みを行っている中学校への自費による視察を行ったりして、研究が大きく後退しないよう工夫した。具体的な結果・分析・改善策については目標別シートに示す。

今後も、本年度の「現状と課題」で掲げた2本の柱となる取組を更に深化継続していきたい。

大阪市立長吉中学校 平成 26 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学力の向上】 ○全職員が年 1 回以上、指導案を作成した研究授業を行い、生徒自身の学びによって学力を向上させることをめざして、わからないことを自ら発見して表現し、ともに考えともに学び合う授業を創造していく。（マネジメント改革関連） ○H24 年度と H25 年度の全国学力・学習状況調査の回答状況を比較分析し、つまずきを克服する指導を行なう。（カリキュラム改革関連） ○H26 学校アンケートの「家庭学習をしっかりとやっている」の項目で「している・どちらかといえばしている」と答える割合を生徒・保護者ともに H25 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連） ○H25 年度図書室の利用者増加の効果を生かし、学びにつながる読書活動を創造していく。（カリキュラム改革関連）	B

(1) 授業研究を伴う校内研修の充実

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【授業研究を伴う校内研修の充実】 学校や学校全体で行う校内授業研究会を中心にして「分かりやすい授業」を目指す。（マネジメント改革関連）	B
指標 全教員が指導案を作成して年に1回以上、校内授業を行う。	
取組内容②【授業研究を伴う校内研修の充実】 外部講師を招聘した校内授業研究会で、授業における生徒のつまずきを分析し、家庭学習の充実も含めてその克服を目指す。（マネジメント改革関連）	B
指標 外部講師を招聘した校内授業研究会を年5回以上行い、つまずきの総括を行い、情報を積み重ねる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
全教員が指導案を作成して、研究授業と相互授業参観週間を通して授業研究を行った。そのうち、年6回（のべとして11回）は外部講師を招聘した研究授業を行い、その後の授業検討会で「生徒の学び」を中心としたアドバイスをいただいた。10月には広島市にある中学校の公開授業研究会に5名が参加して「生徒の学び」のある授業を参観した。また、「言語活動」を中心とした公開授業と「学びの共同体研究会」、東大阪市立金岡中学校の公開授業にも研修担当者が参加をした。 研究授業や授業改善に関する情報を共有化するために「研修通信」を15号発行した。そのような中で、外部講師のアドバイスを参考にして「分かりやすい授業」のために「生徒のつまずき」を分析し、学習課題の設定についての研修が進んでいるところである。	

次年度への改善点
指導案を伴う研究授業は予定通り進んだが、授業力向上と「分かりやすい授業」のためには更なる研究授業の回数の積み上げが求められる。そのためには、一人年に2回以上の授業研究会（授業検討会を含む）が必要とされているといわれるが、学校行事や諸会議・生徒指導などがあるため研究授業・研究討議を積み上げる時間確保が大きな課題となっている。 次に先進的な研究会や公開授業研究会に教員を派遣する旅費や外部講師を招聘する謝礼が課題となった。

(2) 各教科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【国語】 プリント等を用いて、漢字・語彙力の向上を目指す。(カリキュラム改革関連)	指標 定期テストにおいて漢字分野の正解率を昨年（＝67％）以上にする。	C
取組内容②【国語】 暗唱活動を通して、古文・詩歌などの伝統文学に親しませる。(カリキュラム改革関連)		
指標 課題の文章をきちんと暗唱できる生徒を昨年（＝69％）以上にする。		A
取組内容③【国語】 読書に対する興味・関心を高め、読解能力の向上を目指す。(カリキュラム改革関連)	指標 長期休暇の課題で、読書感想文などの文章を書かせる。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
- 各学年において、漢字プリントを用いて漢字学習を行う。定期テストの漢字分野における平均正解率は1年… 51％、2年… 72％、3年… 69％。三学年での正解率は 64％となった。特に一年生では難易度の高いものもテスト問題に取り入れ、日々の授業で語彙力を高めるように説明を加えた。プリント学習だけでなくノート等を使った漢字学習の仕方の指導も行い、漢字・語彙力の向上を目指した。成果の出た者も多かったが、まだ学年全体の漢字学習の定着にまでは至らず、正答率だけをみると年度目標に達しなかった。 1年生は「竹取物語」「百人一首」の暗唱を行い、79％が目標課題を達成する。 2年生は「枕草子」「徒然草」「平家物語」の暗唱を行い、72％が目標課題を達成する。 3年生は「おくのほそ道」の暗唱を行い、90％が目標課題を達成する。 三学年での正解率は 80％となっており、目標を大きく上回る。 - 夏休みの課題として、1年生は「読書紹介文」、2年生は「読書感想文」を行う。 二学期に、3年生は文章読解をもとにした小論文を行う。		
次年度への改善点		

- ・漢字学習が定着した生徒は成果が出ているので、今後はより漢字学習を定着させていく。
- ・昨年より暗唱活動が活発になっており、今後も継続して行っていく。
- ・読解能力の向上のための課題を、今後もより効果的に活用できるように時期・内容を工夫する。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【社会】 外部の授業研究会への参加と校内相互授業参観を通して「分かりやすい授業」を目指す。（マネジメント改革関連） 指標 学期に1回以上相互に授業を参観し、生徒の評価で「分かりやすい」を昨年以上にする。	B
取組内容②【社会】 自作プリント教材等を作成して活用し、基礎学力の定着を図る。（カリキュラム改革関連） 指標 自作の小テストを月に1回以上の頻度で行い、正答率50%以上を目指す。	
取組内容③【社会】 生徒の興味と社会につながる課題学習に取り組む。（カリキュラム改革関連） 指標 課題学習を学期に1回以上取り組む。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
校内授業研究会を中心に授業を1学期に2回、2学期に1回相互に参観して「分かりやすい」授業を目指した。また、各学年で自作プリントも工夫をしながら基礎学力の定着を図った。小テストは各学年で行っているが、行事関係で1・2年において2学期は不十分であった。3学期は予定通り実施できた。学年によって、廊下に新聞記事を掲載する工夫もした。また3年は復習プリントを課し、その中から出題する小テストのため正答率は80%ほど、1・2年は基礎基本と応用を含めた小テストで正答率が1年47%、2年は60%となった。小テストから見ると、家庭学習の定着が不十分だと思われる。 課題学習は主に研究授業で行ったが、他の分野では授業進度との関係で計画的に十分に進めることができなかった。	
次年度への改善点	
「わかりやすい」授業を目指して、教材の工夫と小テストを繰り返し行っているが、基礎的知識がなかなか定着しない現状がある。また小テストに対する生徒個々の学習意欲の差がはっきりと出ている。家庭学習の定着を含め、さらに関心意欲を高める教材の研究が必要である。 学習活動や家庭学習の定着化、また新聞等で社会情勢に触れる機会の増加が求められている。しかし、その環境が十分ではない。そのために、学校で主な出来事の新聞記事を掲示するなど、あらゆる機会をとらえて学習意欲を高める工夫がさらに求められている。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【数学】 ともに考えともに学び合う授業環境を作るための学習形態を工夫する。(カリキュラム改革関連)		A
指標 少人数授業、班活動や個に応じた習熟度別授業を昨年より増やす。		
取組内容②【数学】 つまずきを分析し、克服する指導として、単元ごとに小テストを行い、さらに基礎的・基本的な内容の定着を図る。(カリキュラム改革関連)		B
指標 定期テストの基礎的な内容の問題に関して、正答率60%以上。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
全学年において、学習内容に応じて、コの字型やグループ学習を取り入れた。その結果、生徒たちの授業内容によるコミュニケーションが活発になってきた。 2年生については習熟度別学習を全時間行った。1学期末から2学期中間までは基礎的内容の正答率が低い生徒への手だてとして基礎コースを全体の4割にした少人数授業にしてきめ細やかな指導を心掛けた。		
定期テスト平均点		
1学期中間テスト 1年 58.6 2年 64.1 3年 64.6		
1学期末テスト 1年 51.9 2年 56.5 3年 52.7		
2学期中間テスト 1年 53.6 2年 57.0 3年 56.9		
2学期末テスト 1年 39.2 2年 78.3 3年 67.1		
である。そのうち、基礎的内容の出題率はテストによって多少の差はあるが、7割程度である。全体的に、正答率は60%を超えたと思われる。		
次年度への改善点		
文字式などの計算問題は成果が出てきているが、全学年において、関数領域でつまずきがみられる。関数領域の教材・授業研究を深めていきたい。 少人数授業、班活動や個に応じた習熟度別授業を増やすことにより、成果が出てきていると思われるので継続していきたい。ただし、使用教室の調整が必要である。		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【理科】 実験・観察技能を習得させる。(カリキュラム改革関連)	B
指標 生徒実験・観察などを年に15回以上の頻度で行う。	
取組内容②【理科】 視聴覚教材の活用を図る。(カリキュラム改革関連)	B
指標 1学期に1回以上の頻度で、視聴覚教材を取り入れた授業を行う。	

取組内容③【理科】 基礎学力定着のために、反復練習を行う。(カリキュラム改革関連)	B
指標 学力診断テストの正答率を 45%以上、定期テストの正答率 55%以上。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
[実験・観察回数] 1年：17回 /2年：15回 /3年：16回 実験・観察などを行う頻度について、すべての学年において達成することができた。 [視聴覚教材の活用] 理科室にビデオ配線の工事を行うなど、設備の充実をはかることができた。また、プロジェクターを用いて動画を視聴し、授業展開に活用した。 [定期テスト平均点] 1年：46.0 /2年：49.9 /3年：71.2 (1学期中間～2学期期末) 定期テストの正答率については、3年生は達成しているものの、1・2年生はやや下回る結果となった。 これらの結果から、実験・観察の技能の習得については概ね達成することができた。しかし、基礎学力の定着については学年ごとの課題が残り、視聴覚教材の活用については理科室の設備充実などを受けてより一層活用していくことが望まれる。	
次年度への改善点	
実験・観察のための機器を充実させ、視聴覚教材をより多く用いることで基礎学力や実験・観察技能を養う。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【音楽】 音楽への関心・意欲・態度を向上させる。意欲を高め、表現や鑑賞に積極的に取り組ませる。(カリキュラム改革関連)	B
指標 忘れ物を昨年度より減らす。また音楽頑張りカードを毎時間書き、授業のねらい、目標を記入して明確にし、自己評価も書いて振り返りをさせる。提出物の提出率を総合で 90 パーセント以上にする。	
取組内容②【音楽】 音楽表現の創意工夫・技能を向上させる。(カリキュラム改革関連)	B
指標 音楽表現のための基礎知識の定着を図り、表現に活かす。そして歌唱・器楽の技能を伸ばす。実技テスト合格率を参加者の 90 パーセント以上にする。実技の課題は怪我などの身体的事情に配慮しながら進める。	
取組内容③【音楽】 鑑賞の能力を向上させる。(カリキュラム改革関連)	B
指標 より豊かに鑑賞曲の素晴らしさを味わうために、鑑賞曲に関する知識を身につけさせる。鑑賞曲の紹介文を書き、発表報告の場をもつ。鑑賞に関する提出物の提出率を参加者の 90 パーセント以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① 1学期から現在までの提出物の提出率は3学年参加者総合で92%である。さらに提出率をあげていくよう、促した。 ② 1学期から現在までの実技テストの合格率は3学年参加者歌唱、器楽総合で91%である。歌唱、器楽とも、再テストや補習を行い、歌唱はほぼ100%に近くなったが、リコーダーはまだ苦手意識を持つ生徒がいる。しかし3年生ではリコーダーのテストの課題曲を選択制にしたが、難易度の高い方に挑戦する生徒が増えてくるなど、向上のきざしが見られた。歌唱は学年を重ねるにつれて、合唱を楽しもうという気持ちが少しずつ高まってきた。 ③ 1学期から現在までの鑑賞に関する提出物の提出率は、3学年参加者総合で93%である。楽曲の素晴らしさを感じ取り、肯定的に紹介文や感想を書く生徒が増えてきた。
次年度への改善点
① さらに提出率をあげるよう、出ていない生徒にも粘り強く促していく。 ② リコーダーの苦手意識を克服できるよう、指使いが平易な曲や、よく耳にする名曲などでなじませ、さらにレベルアップをはかりたい。 ③ 鑑賞曲の紹介文は肯定的な内容が増えてきているが、紹介文の中に音楽的要素を含まれるよう、さらに指導していきたい。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【美術】 主体的に美術の活動に取り組み、心豊かに創造していく意欲と態度を高めるために自己評価と次回の目標を立てさせる。(カリキュラム改革関連) 指標 美術カードを用いて自己評価と次回の授業目標を毎回立てさせる。学期末には総合した自己評価を行う。	B
取組内容②【美術】 自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を養うためにスケッチの学習を取り入れる。(カリキュラム改革関連) 指標 月に1度以上授業内に対象物のスケッチを行う。	B
取組内容③【美術】 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高めるために鑑賞学習を行う。(カリキュラム改革関連) 指標 1学期に1度以上の頻度で互いの作品や名画の鑑賞を行う。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

取組内容①について：美術カードを用いることで自己評価と次回の目標を持てる生徒が増え、授業にも前向きに取り組む生徒の姿が多く見られた。また、そのことにより作品進度も早くなり、質の高い細やかな作品作りを行うことができた。 取組内容②について：スケッチ学習に加えデッサンの練習を行うことで、表現力の向上につながった。 取組内容③について：鑑賞学習は学期ごとに2度以上の頻度で行うことができ、他者の作品を見ることで自分の作品作りにつなげていくことができた。
次年度への改善点
美術カードをより充実したものにするため、毎回の授業終了時には次回の目標を立てさせ、記入していく欄を設けたい。 スケッチ学習やデッサンの練習で表現力の向上につなげることができたので、次年度ではクロッキー学習を取り入れ、より表現力の向上につなげたい。 鑑賞学習においては学年を超えてさまざまな作品に出会うため、美術室内の作品展示を充実させ、また校内に掲示もしていきたい。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【技術家庭科】 基礎的・基本的な授業内容の定着を図る。（カリキュラム改革関連） 指標 ノートやプリントなどの点検を月に1回以上実施し、助言を行う。	B
取組内容②【技術家庭科】 生活をよりよくしようとする意欲と態度を育てるために、実践的・体験的な活動を多く取り入れる。（カリキュラム改革関連） 指標 作品の完成率を90%以上にする。	C
取組内容③【技術家庭科】 グループ活動を多く設定し、生徒同士の意見交流の時間を多く設ける。（カリキュラム改革関連） 指標 単元ごとにグループ活動を行い、ワークシートを記入させ点検する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
ノートやプリントを月1回以上点検している。提出物を全員提出するように促すとともに、点検をした後、改善点の助言ができるようにした。 実習を多く取り入れているが、作品によっては完成率が70%～90%のばらつきがある。 3学期後半に補習などを取り入れ、90%以上を目指していきたい。 実習の時間も含め月2回以上の割合でグループ活動を行った。ワークシートの記入の時間もとる事ができた。そのため、毎時の自分の課題を見つけ、次の授業の課題を見つける事ができるようになってきた。	
次年度への改善点	

- ・作品の完成にまだばらつきがある。そのため、完成率が90%以上になるように、補習を行うと共に、毎時の授業展開を工夫し、生徒への助言を増やしていきたい。
- ・実習や班活動を多く取り入れ、生徒同士での教え合いの場を増やしていきたい。(実習時間を含め、月2回以上取り入れることを目標とする。)

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【英語教育の強化】 単元ごとに文法テスト、単語テスト、音読テストを実施し、基礎基本的な内容の定着を図る。(カリキュラム改革・グローバル化改革関連)		B
指標 小テストの回数を昨年度以上おこなう。		
取組内容②【英語教育の強化】 身につけた基礎学力の活用をするための取り組みをおこなう。(カリキュラム改革関連)		B
指標 ペアワークを積極的に取り入れ、グループ学習を月に1回以上おこなう。		
取組内容③【英語教育の強化】 放課後の自主学習を実施し、個に応じた学習活動を支援する。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)		B
指標 放課後の自主学習の取り組みを年間5回おこなう。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
・基礎基本的な内容の定着を図るために、単語テストを中心に各学年で平均すると週一回程度(昨年と同様程度)実施できている。各学年の学習内容や生徒の実態に合わせているため、不定期・短期間での実施となっている部分もある。 ・身につけた基礎学力の活用をするためにペアで本読みや単語・文法の確認をおこなっている。グループ学習やC-NETとの会話練習を行うなど四技能を意識した活動を不定期ではあるが実施できている。 ・定期テストごとに放課後の自主学習の取り組みを実施できている。		
次年度への改善点		
・不定期・短期間での実施になっているが、3年間(または1年間)の見通しを立てて継続的・反復的な活動を計画していきたい。 ・生徒同士、教師と生徒または生徒とC-NETなどさまざまな形態で四技能を意識した活動を実施していきたい。		

(3) 自主学習習慣の確立

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況												
取組内容①【自主学習習慣の確立】 授業の予習・復習などに活用できる学習教材を提供する。（カリキュラム改革関連）		B												
指標 「家で学校の宿題（授業の復習）をしていますか」の項目で「している・どちらかといえばしている」と答える生徒の割合を昨年度より向上させる。														
取組内容②【自主学習習慣の確立】 放課後に自主学習を支援する場を計画的に提供し、体制を組んで学習活動を支援する。（カリキュラム改革・学校サポート改革関連）		B												
指標 放課後の学習会を昨年度以上にする。														
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析														
平成 26 年度全国学力・学習状況調査において、「家で学校の宿題をしていますか」の肯定的回答率は 89.0%、また「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的回答率は 50.8%、そして、「家で、学校の復習をしていますか」の肯定的回答率は 49.1%であった。 学校評価アンケート「家庭学習に取り組めた」の肯定的回答 <table><tr><td></td><td>1 年</td><td>2 年</td><td>3 年</td></tr><tr><td>1 学期</td><td>59.3%</td><td>41.9%</td><td>43.5%</td></tr><tr><td>2 学期</td><td>60.9%</td><td>58.7%</td><td>61.3%</td></tr></table> 中間反省で、宿題のような与えられた家庭学習教材への意識は高いと分析し、家庭でできる学習教材を継続的に提供した。1 学期と 2 学期を比較して、全学年ともポイントは上がった。 自主学習を支援する場として、昨年度と同様、元気アップ事業による学習会に限らず、テスト前を利用した学年や部活動による学習会を開催した。そして、学習形態や目的に応じて生徒は参加した。昨年度同様、夏休みに各学年、学習会を実施した。				1 年	2 年	3 年	1 学期	59.3%	41.9%	43.5%	2 学期	60.9%	58.7%	61.3%
	1 年	2 年	3 年											
1 学期	59.3%	41.9%	43.5%											
2 学期	60.9%	58.7%	61.3%											
次年度への改善点														
家庭学習の習慣化が進んでいるので、この取り組みを継続的に進めていく。ただ、一部の生徒については、家でどのような勉強をすればいいのかわからない生徒もいるかと思われるので、それに対する指導を考えていきたい。														

(4) 読書活動の充実

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【読書活動の充実】 図書館への関心を高め、図書館の利用人数を増やす。(マネジメント改革関連)		B
指標 1 2 月までの図書館の利用人数を昨年度以上にする。		

取組内容②【読書活動の充実】 生徒の興味を引く本を増やし、図書館の貸し出し冊数を増やす。(カリキュラム改革関連)	C
指標 1 2 月までの貸し出し冊数を昨年度以上にする。	
取組内容③【読書活動の充実】 本の読み聞かせを行い、読書活動への関心を高める。(カリキュラム改革関連)	C
指標 1 2 月までに昨年度と同程度の読み聞かせを行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
・前期は給食導入によって月水金の開館日のうち水曜日を放課後開館に変更したが、会議などのために開館できないことが多くあり、後期からは月水金すべての開館を昼休みに戻した。そのため、2015 名が図書室を利用しており昨年度の 1914 名を上回る結果となった。 ・読書習慣がついて週に何冊も読む生徒が増え、100 冊以上読んでいる生徒もいる。一方、一冊も借りたことのない生徒も多い。生徒の人気の高いジャンルの本を大量に図書室に入れるが、一部の生徒の貸し出し冊数の向上に繋がるだけで、全体への影響はまだ小さい。1482 冊が貸し出され、昨年度の 1655 冊を下回る結果となった。 ・昨年度は読み聞かせ活動を行える支援員と外部からのボランティアとの連携がうまく取れ、定期的に読み聞かせを行うことができた。今年度は校内独自での読み聞かせ活動を目指したが、時期や方策などを十分に計画することができず、活動時間の確保と人員配置が不十分だったため、結果として読み聞かせ活動行うことができなかった。	
次年度への改善点	
・図書室の開館日の連絡をプリントにして生徒に配布する。 ・本への興味関心を高める本の購入や、紹介を行う。 ・読み聞かせ活動を行うために、ボランティア等と連携を取りながら「開催時期」や「人員配置」「方法」などをより具体的に計画していく。	

年度目標	達成状況
【道徳心・社会性の育成】 ○学校行事や生徒の主体的な活動も含め、他者への思いやりの心を育てる取組を一層充実させる。また、昨年度の学校で認知した「いじめ」への粘り強い対応の成果を生かし、「いじめ」および暴力行為の発生件数を昨年度より減少させる。(カリキュラム改革関連) ○人権尊重の精神と社会性を育成するため、体験的な学習を取り入れた教育を全学年で実施・充実させるとともに、生徒が輝き成就感を得られる自主的・体験的活動を組織し教職員全体で支援する。このことで、生徒アンケート等で「学校は楽しい」など充実感を示す解答を昨年度以上に向上させる。(カリキュラム改革関連) ○美化活動に積極的に取り組む態度を養うとともに生徒の主体的な環境整備活動を支援し、生徒向け学校アンケート「清掃活動はしっかりできている」で肯定意見を向上させる。(カリキュラム改革関連)	B

(1) いじめ・問題行動への対応

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【いじめ・問題行動への対応】 担任と生徒との信頼関係を深め、生徒理解に努める。(カリキュラム改革関連) 指標 春、夏、冬と長期休暇後の3回、被害調査を行う。年2回以上は教育相談を行う。また、いじめ調査においては、年5回以上行う。	B
取組内容②【問題行動への対応】 子ども自身で問題解決し、自己選択できるよう健全育成教育を行う。(カリキュラム改革関連) 指標 各学年、発達段階に応じて年間1回以上、全校生徒では年間3回以上、健全育成教育を行う。	B
取組内容③【学校・家庭・地域の連携の推進】 保護者や地域、関係諸機関と連携して、協力して指導していく。(ガバナンス改革関連) 指標 月に1回生指連絡を行い、全教員が生徒の状況を把握できるようにする。また、各学期末には1回以上いじめ防止委員会を行っていく。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
春、夏、冬の長期休暇後の3回、被害調査を行った。教育相談も1、2学期に1度ずつ行った。いじめアンケートは合計で5回行った。生徒の実態を把握でき、指導に活かした。健全教育に関しては、4月に『生活の確認』に関する全校集会、7月に交通安全教室、3月に避難訓練と3回行った。各学年においては、1年生で携帯教育、2、3年生で薬物乱用防止教育も行えた。 生指連絡は、職員会議後に月1回行い、いじめ防止委員会は各学期末の3回行った。取組評価アンケートも各学期末の3回行い、教職員間で、共通認識を持つことができた。補導件数も昨年度の140件から35件に減少した。	

次年度への改善点
各学年で起こった問題行動において、次年度も継続して取り組んでいきたい。また、補導件数は減少したが、10月頃に深夜徘徊の心配が見られたので、次年度は2学期が始まった頃から注意を促していきたい。

(2) 人権を尊重する教育の推進

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【人権を尊重する教育の推進】 生徒とのかかわりを第一に、地域・学校の特色を考慮した短期の取組みを多く計画・指導する。（カリキュラム改革関連）		B
指標 学年・委員会などとの連携をはかった取り組みを行い、アンケートや感想文等により生徒の意識の把握に努める。		
取組内容②【人権を尊重する教育の推進】 道徳教育との連携し、様々な取組みの中から本校にあった人権教育を考え、構築する。（カリキュラム改革関連）		B
指標 人権教育交流会や実践交流会をはじめとした研修に多く参加する。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
① 授業時間・学級活動をはじめとして、学校生活（登下校・休憩時間・放課後）における日常的な取り組みの中で積極的に生徒と対話し、気持ちのふれあいを図った。トラブルに対しては即座に対応し、家庭訪問を含め個別指導を行った。また、状況に応じて学級活動・学年集会・全校集会等で生徒への問題提起を行った。学年・委員会を通じて学年間のさらなる連携に努め、教師間の共通理解をもとに取り組みを進めた。定期的に行う生徒相談では、アンケートや感想文をもとに生徒各自に応じた相談を行った。 校内での活動の様子については、「学年だより」の発行や写真掲示などにより、適宜紹介するとともに、家庭との協力・連携に努めた。 丁寧な取り組みを行っているが、人権尊重教育の全体化はまだまだ不十分である。		
② 人権教育交流会（ 9月 2日） 15名参加 人権実践交流会（11月17日） 12名参加		
次年度への改善点		
人権について考える機会を増やし、生徒とのかかわりを深める取り組みを継続するとともに、さらに校内での活動や生徒の考え・思いを、学校・学年等からの通信を用いて発信し、家庭との協力・連携を強めることが求められている。		

(3) 道徳教育の推進

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【道徳教育の推進】 社会性の育成を意識した仲間づくり（校外学習・文化祭等）を行い、参加型・体験型の学習を取り入れたカリキュラムを実施する。（カリキュラム改革・ガバナンス改革関連）		B
指標 学年・委員会などとの連携をはかった取り組みを行い、アンケートや感想文等により生徒の意識の把握に努める。		
取組内容②【道徳教育の推進】 社会の一員であることの認識をさせるため、奉仕活動を中心とした、地域交流に取り組む。（カリキュラム改革関連）		B
指標 ボランティア清掃（年１回以上）、職場体験、認知症講演会等を各学年で行う。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
① 仲間づくりを意識した取り組みとして校外学習（修学旅行・一泊移住）で班活動・グループ活動を多く行った。その結果、平成２６年度学校評価アンケート〔２学期〕の「学校には自分を大切にしてくれる人がある。」の項目で ９２．７％ 「体育大会や文化祭は、満足できた。」の項目で ８６．５％の生徒が「よくあてはまる・ややあてはまる」と返答している。 各行事には積極的に参加し、仲間意識の向上には成果が見られるものの、十分な状態には至っていない。 活動の様子については、適宜「学年だより」の発行や学校紹介ホームページなどを利用して家庭に紹介した。		
② ボランティア清掃（１年 １２月） 職場体験・マナー講習（２年 １１・１２月） 制服着こなし講座〔マナー講習〕（３年 １月） 平和学習（１年：９月 ２年：９月 ３年：１月） 車いす体験（１年：２月 ２年：１月） 国際理解教育（１：３月 ２年：３月 ３年：２月） を実施した。 特にボランティア清掃には地域からもいい評価をもらった。また、生徒たちも取り組みの意義を少しずつ考えることができるようになってきた。		
次年度への改善点		
仲間づくりを意識した取り組みを継続していくとともに、奉仕活動などを通して地域との交流を深める必要があり、時間的・人的補償を十分にすることが必要である。		

(4) 特別支援教育の充実

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容① 【特別支援教育の充実】 一人ひとりの実態に応じた指導・支援を行う。(カリキュラム改革関連)		B
指標 学期ごとに生活面、学習面の両面から個別の目標を設定し、それに基づいた指導を行う。		
取組内容② 【特別支援教育の充実】 特別支援教育の実践においては、全教職員で共通理解して行う。(マネジメント改革関連)		B
指標 各生徒の状況や個別の目標については、職員会議、特別支援教育連絡会、研修会などの機会を通じて、全教職員で情報を交換し、適切な関わり方について確認し合う。		
取組内容③ 【特別支援教育の充実】 保護者や関係諸機関との連携を取りながら、より適切な支援策を検討・実施する。(ガバナンス改革関連)		B
指標 「連絡帳」を通じて保護者と日常の様子を伝え合う。 「連絡帳」での意思疎通が難しいと思われる場合は保護者と直接会う機会を定期的に設ける。 関係諸機関と情報交換した内容は記録に残し、必要と思われることは職員会議や学年会などで報告する。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
・ 個々の生徒について、学期はじめにたてた目標に向かって指導を進めた。状況が厳しくなかなか前に進めない生徒については、生徒の状況をよく見て無理をさせないように実態に即した対応を行った。 ・ 関わり方に配慮が必要な生徒については、全体で確認しながら日々の指導に当たった。 ・ 本人への直接のサポートが難しいケースは、定期的に保護者と連絡を取り、情報交換をして連携をはかった。		
次年度への改善点		
・ 抽出授業を行っていない生徒や不登校の生徒など、直接かかわる機会が持ちにくい生徒については担任との情報交換の機会を定期的にもつ。 ・ 全体での共通理解のための研修の機会を確保する。		

(5) 体験的学習の充実

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【体験的活動の充実】 生徒会活動を通して、学校より良くするための活動の場を作り、生徒一人一人の自主性、協調性を高める。	B

・「長中ソーラン」を昨年度以上に充実させて体育大会で実施し、その様子を生徒によるビデオ撮影で記録し、文化祭で上映できる作品に仕上げる。 ・環境整備と作物を育て収穫する共同体験学習を合わせて目標とし、農園活動と「収穫祭」を実施する。（カリキュラム改革関連）	
指標 生徒向け学校評価アンケートの「学校でのいろいろな行事に積極的に取り組んでいる」「環境整備・美化活動にしっかり取り組んでいる」の項目で肯定的回答を昨年度以上にする。	
取組内容②【体験的活動の充実】 文化祭の一環として実施している芸術鑑賞において、古典芸能に親しむとともに、次年度以降の「長中ソーラン」の質的向上につなげていくため、日本の民謡や伝統的な楽曲を主体とする演奏を鑑賞し、合わせて生徒代表も参加できるものとする。（カリキュラム改革関連）	B
指標 生徒向け学校評価アンケートの「学校での生活は楽しい」「学校でのいろいろな行事に積極的に取り組んでいる」の項目で肯定的回答を昨年度以上にする。	
取組内容③【体験的活動の充実】 各学年で次のように体験的学習に取り組み、人権尊重の精神と社会性を育成する。 ・1年 一泊移住・校外学習・百人一首大会・球技大会・地域清掃を実施し社会性や自主性を育成する。 ・2年 校外学習・百人一首大会・球技大会を実施し、社会性や集団行動で考える力を向上させる。 ・3年 修学旅行（民家泊を含む）・球技大会・水泳大会を実施し、生徒の自主性、協調性を高める。（カリキュラム改革関連）	B
指標 生徒向け学校評価アンケートの「学校での生活は楽しい」「学校でのいろいろな行事に積極的に取り組んでいる」の項目で肯定的回答を昨年度以上にする。	
取組内容④【進路指導】 体験的学習を取り入れたキャリア教育を次のように推進する。 1年 職業講話を実施し、自己の個性や生き方、将来の進路を見つめ、「働くこと」への関心・意欲の高揚と学習意欲向上を図る。 2年 地域での職場体験学習を通して、勤労観・職業観の形成を図ると共に、規範意識やコミュニケーション能力などを習得させ、豊かな人間性を育成する。 3年 高校見学会、説明会を通して、自らすすんで情報収集する能力を育てる。学校調べや仕事調べを通して、主体的に進路選択する能力態度を育てる。（ガバナンス改革関連）	B
指標 生徒向け学校評価アンケートの「学校での生活は楽しい」「学校でのいろいろな行事に積極的に取り組んでいる」の項目で肯定的回答を昨年度以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組み内容①について 長中ソーランにおいて演舞のフリ決めから構成、チーム分けなどすべて生徒主体で行った。文化祭には技術部による映像編集によって映像作品を上映することができ、学校評価アンケートの「学校でのいろいろな行事に積極的に取り組んでいる」の項目で肯定的回答は昨年度以上であった。農園活動では例年を上回るサツマイモを収穫することができ、12月に行った収穫祭での薩摩汁はおいしかったとの声を多く聞くことができた。「環境整備・美化活	

動にしっかり取り組んでいる」の項目は昨年度、清掃活動に限定していた文言を、より内容面で高いものとしたため、肯定的意見は昨年度を上回ることができなかった。しかし、清掃活動におけるアンケートには昨年度以上の肯定的結果を得ることができた。

取組内容②について

芸術鑑賞において津軽三味線で南中ソーランを演奏してもらい、それに合わせ長中ソーランのダンスリーダーが演舞し、演奏者と演舞者、そして鑑賞者とが一体となり、今までにない芸術鑑賞を行うことができた。学校評価アンケートの「学校での生活は楽しい」の項目はほぼ横ばいの結果であったが、「学校でのいろいろな行事に積極的に取り組んでいる」の項目では昨年度以上の回答を得ることができた。

取組内容③について

- ・ 1 年 一泊移住を 6 月、校外学習を 11 月に実施。ともに学年・学級単位の活動と班単位の活動を設け、自主的に協力して活動するように促した。その中で、社会・集団の規律を守る必要があることも指導した。12 月には地域清掃を実施し、地域の一員であることの自覚・公共心育成を図った。1 月に実施した百人一首大会は伝統文化に親しみながら、集団育成の一助となった。2 学期の学校評価アンケートの結果は「学校での生活は楽しい」の肯定的回答は 83.4%、「学校でのいろいろな行事に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答は 69%、「体育大会や文化祭は満足できた」の肯定的回答は 87.7%であった。球技大会は 3 月に実施予定である。なお、年度初めの予定にはなかったが、車いす体験を 2 月 19 日に実施し、相手の立場に立って考えることや、助け合うことの大切さ、具体的な介助の方法などを学んだ。
- ・ 2 年 校外学習を 6 月と 11 月に、球技大会を 7 月に、実施した。6 月の校外学習は須磨海浜水族園での班活動での見学や、学級対抗のビーチフラッグ大会を楽しむことができた。11 月の校外学習は、みかん狩りを実施した。自然の恵みに感謝しつつ、集団での責任を持った行動を考える場となった。球技大会では、係生徒による主体的な運営ができるように指導した。2 学期の学校評価アンケートの結果は「学校での生活は楽しい」の肯定的回答は 79.8%、「学校でのいろいろな行事に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答は 62.3%、「体育大会や文化祭は満足できた」の肯定的回答は 86.3%であった。1 月には百人一首大会を実施、1 年生の時よりしよく覚えて取り組む姿勢が見られた。なお、今後も球技大会を 3 月に実施する予定である。
- ・ 3 年 修学旅行は計画通りに実施。民泊・ラフティングの体験を通して大自然や人との貴重なふれあいを体験できた。また、選択体験として、溪流釣り・マウンテンバイク・カヌー・ツリークライミング・バームクーヘン作り・りんごジャム作り・アップルパイ作りを体験。自主的に行動することの楽しさを体験できた。水泳大会は生徒の安全確保が困難であるとの判断から実施していない。球技大会は授業数確保の目途がたったので 3 学期末に実施する予定である。2 学期の学校評価アンケートの結果は「学校での生活は楽しい」の肯定的回答は 80%、「学校でのいろいろな行事に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答は 72%、「体育大会や文化祭は満足できた」の肯定的回答は 86%であった。

取組内容④について

- ・ 1 年 職業講話を 2 月に実施した。
- ・ 2 年 職場体験を 12 月に実施した。
- ・ 3 年 高校見学会・説明会に参加した生徒の延べ人数は 200 名を超えた。生徒各自で高校までの交通手段などの必要な情報を調べて参加した。

次年度への改善点
取組み内容①②について ・ 生徒会活動において各機関と連携し、生徒が活動できる場を広げていく。 ・ 農園活動、収穫祭では他の委員会と協力し、より多くの生徒が環境整備と作物を育て収穫する共同体験学習を行う。 取組み内容③について ・ 各学年間で前年度の反省を申し送るとともに、授業数確保の必要性に配慮しつつ、見通しを持って各学年各部と行事の実施に向けて連絡・調整を図る。 取組み内容④について ・ 1、2年生の取り組みは事前準備が多いためである。授業数確保の必要もあるので、今後も続けていくためには、他行事との調整及び行事の精選が必要である。

(6) 美化・環境整備

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【美化・環境整備】 自ら進んで校内美化に取り組む態度を養う。(カリキュラム改革関連) 指標 日常の清掃活動が円滑に行われるように指導を徹底し、年間で5回の大清掃を実施する。	B
取組内容②【美化・環境整備】 自分たちの身の回りの物を大切にすることを養う。(カリキュラム改革関連) 指標 教室の備品の正しい使い方について指導する。 学期ごとに破損チェックを行い、校内の施設が整備されている状態を保つ。	B
取組内容③【美化・環境整備】 学校内の緑化を推進する。(カリキュラム改革関連) 指標 環境委員会が中心となって、校内の花壇を整備・管理する。 花壇の植物について興味関心を持ってもらえるように広報活動をする。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
・ 日常清掃は定着しており、ほとんどの生徒がまじめに取り組んだ。大清掃も計画通り全員参加で実施され、日ごろは行き届かない場所の清掃も行った。 ・ 清掃用具や校内備品を雑に取り扱って破損してしまうなどの事例はほとんどなく、年間を通じて備品は大切に扱われていた。 ・ 環境委員で当番を決めて、水やりや雑草ぬきなどを自主的に行った。	
次年度への改善点	
・ 清掃用具や校内備品などを使用した後に、数を確認して元の場所に返却するなどの管理面についても生徒に自覚をもって取り組むよう指導する。 ・ 校内美化や校内緑化について、生徒にポスターなどで啓発活動を行わせる。	

年度目標	達成状況
【健康・体力の保持増進】 ○知・徳・体の調和のとれた人間形成の一環として体育的行事を充実させるとともに、部活動への参加率を一層向上させる。(カリキュラム改革関連) ○H25 年度全国体力・運動習慣等調査で課題のある種目の指導を強化し、男女ともに運動能力を一層向上させる。(カリキュラム改革関連) ○健康で楽しい学校生活を自ら作り出す生活態度を養うとともに、定期健康診断の結果による治療勧奨を行い、未治癒率を更に減少させる。(カリキュラム改革関連)	B

(1) 体育的活動の充実

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容① 【体育的活動の充実】 体育大会で生徒の自主的・主体的な取り組みを充実させる。 ・体育大会での係生徒の役割を整理する。 ・長中ソーランの取り組み開始時期を前年度よりも早める。(カリキュラム改革関連)		B
指標 ・生徒向け学校評価アンケートの「学校でのいろいろな行事に積極的に取り組んでいる」の項目で肯定的回答を昨年度以上にする。 ・参加生徒アンケートを実施し自己評価を文章表記で行える生徒の割合80%を目指す。		
取組内容② 【体育的活動の充実】 授業で講師として外部指導者を招へいし、新しいスポーツを体験的に学んで運動能力向上や体力増進に役立てるとともに、体育的行事を充実させる。(学校サポート改革関連)		B
指標 体育的行事ごとにアンケートを実施し肯定的意見80%を目指す。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
体育大会での長中ソーランの取り組みでは、例年より活動時期を1週間早めたことにより、より充実した取り組みとなった。 また、係生徒の役割の整理については、合理化を図ったことにより例年より円滑に行うことができた。 2学期に行った学校評価アンケートについては、「体育大会や文化祭は満足できた」の肯定的回答が全学年で86.5%と、目標の達成に至った。 3学期に、2年生では車いすハンドボール、アルティメットの2種目で外部指導者を招へいし、体験的学習を行った。外部指導者を招へいすることで、生徒の興味関心が増し、積極的に活動することができた。 車いすハンドボール、アルティメットの活動後に行ったアンケートでは、肯定的意見が目標の80%を達成できた。		
次年度への改善点		

体育大会の円滑な運営の検討
長中ソーランの充実
外部指導者招へい事業の充実

(2) 体育科の授業の充実

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【体育科の授業の充実】 体育授業において、チームティーチング、少人数指導を充実させる。(カリキュラム改革関連)	B
指標 全学年の授業をチームティーチングや少人数指導を行い、昨年度以上に充実させる。	
取組内容② 【体力向上への支援】 体力向上のために日々の活動量を増やし、昨年度新体力テストで全国平均以下であった種目の数値の向上、全体平均の向上をめざす。(カリキュラム改革関連)	B
指標 新体力テストの結果が、前年度以上の数値となるよう、チームティーチングや少人数指導を行うことで日々の活動量を増やし、体力の向上を図る。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
2年生では単学級授業による少人数指導を展開してきた。また、1・3年生においてはチームティーチングを行い、生徒の個々の段階に応じた指導を行うことができた。 また、体力テストでは、男女ともに前年度以上の数値となった。体力テスト合計点では、男子は大阪市平均を上回り、女子では全国平均を上回ることができた。 以上の結果より、次年度以降も、チームティーチングや少人数指導を行い、個々の段階に応じた指導や日々の活動量を確保できるような授業を展開し、体力向上を図る。	
次年度への改善点	
規律ある授業の中で、体力向上をめざし、単学級授業や少人数指導など、チームティーチングや少人数指導を継続して行う。	

(3) 健康な生活習慣の確立

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【健康に関する現代的課題への対応】 来室統計をもとに、実態に即した疾病やけが予防の情報を発信する。(カリキュラム改革関連)	B
指標 毎月1回の来室統計を発行し、ほけんだよりを月1回以上発行する。	
取組内容② 【健康な生活習慣の確立】 生活習慣や行動を振り返り、自身の健康課題に対して考え、疾病やけがの予防の指導を行う。(カリキュラム改革連)	B
指標	

来室者へ、来室カードによる振り返りを行い指導する。		
取組内容③ 【健康な生活習慣の確立】 個別の健康診断結果一覧を発行し、疾病の予防と早期治療を促す。（カリキュラム改革関連）		B
指標 治療勧告書を学期に1回以上発行するとともに、個別指導を実施し未治療率を昨年度より減少させる。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
① 毎月来室統計を作成し、教職員へ保健室利用状況やけがの発生状況を共有、疾病・けが予防を呼びかけた。また、毎月ほげんだよりを発行し情報発信した。 特に、けがの来室は142件、医療機関受診件数は4件、昨年度より減少。 ② 来室カード情報をもとに、健康課題別（生活習慣・内科・外科・心）の資料を作成し、来室生徒への指導に活用した。健康に対する意識の向上が引き続き課題。 ③ 個別の健康診断結果一覧を作成し、学期末懇談時、治療勧告書とともに保護者へ配布し、早期治療を促した。1年生は、3学期に歯と口の健康教室を実施した。個別の声掛け、指導が、受診につながる生徒も多くいた。 受診率は、昨年度49%から、今年度62%に向上した。治療率の低かった歯科は、歯と口の健康教室後に受診率が上がった。		
次年度への改善点		
・けが以外にも、対人関係や家庭の悩みが心身の不調につながっている生徒も多い。校内・SC・SSW等とも連携し継続的な支援をしていく。 ・来室状況から課題を把握し、自身の健康課題に関心を持てる取り組みや、保健室の資料・掲示物を工夫する。 ・未治療者へ継続して治療勧奨を行う。個別指導も含め、治療勧奨の方法も検討していく。		